

3) 屋敷や農地を守る屋敷林や防風林が特徴的な農村景観

仙南地域では、標高の高い蔵王連峰がもたらす気象現象のひとつとして、冬から春先にかけて強い風が吹き下ろす「蔵王おろし」は、人々の暮らしの中で避けて通れないもののひとつです。

かつて強い風や雨は、時として屋敷や農地に大きな被害をもたらすものであり、先人たちは、屋敷地や農地を守る工夫として、高木を屋敷地の周囲や農地の脇に風向きに応じて配置することで対応をしてきました。このような工夫は、仙南地域の農村集落のあちこちで見られます。

川崎町では、町の中心を通る旧街道に対し、垂直方向に街区ごとに高木が立ち並ぶ防風林の景観が特徴ある農村景観となっています。角田市では、阿武隈川沿いの田園地域において、広がりのある平野部において河川沿いを吹き抜ける風や山からの吹き降ろしの風等を意識した屋敷林をもつ屋敷地が点在し、広がりのある農地とともに特徴ある田園景観となっています。

生活様式の変化と建材・工法の変化により、農家住宅等における屋敷林は減少しているものの、仙南地域の風土とともに生きる人々の営みがつくりだしてきた景観として、今でも目にすることができます。



▲春の田園風景（蔵王町）



▲秋の田園風景（蔵王町）



▲鎌先温泉（白石市）



▲旧街道の松並木と屋敷林（川崎町）

(3) 特性3 水陸交通の要衝を担った歴史性を継承する都市・町場の景観

- 1) 地形を活かし整備された城下町の歴史と文化を継承した都市
- 2) 水運・陸運による流通で栄えた商業地
- 3) かつての街道の往来を支えた宿場町の風情を残す町場・集落地

1) 地形を活かし整備された城下町の歴史と文化を継承した都市

中世以降、国境に位置する仙南地域は、関東と東北を結ぶ交通の要衝であったことから、歴史的に重要な役割を担うエリアとして、都市が築かれてきました。

なかでも白石市の市街地は、近世に入り本格的に城下町が築かれ、その際、城山により吹き降ろしの風を弱められる位置に城下町を配するとともに、白石川から水を引き入れ城下には堀や水路を張り巡らしました。この城山や白石川等の自然を巧みに利用した基盤は現在の市街地にも継承され、今でも城下には豊かな水が流れ、武家地由来の低層住宅地や町場由来の商店街等とともに歴史性を継承した景観が見られます。近代に入り鉄道網が整備され、城下の脇に駅が置かれることにより、駅周辺から城下町にかけて白石市の中心を担う市街地の景観が形成されています。

また、柴田町の四保山や村田町、川崎町においても、広域交通の要衝として、丘陵部に山城を配し、ふもとに城下が整備されるなど、地形条件を生かした都市が築かれることにより市街地が形成され、現在でも町割りの名残を示す道筋や町場の景観を通してその歴史性を見ることができます。

2) 水運・陸運による流通で栄えた商業地

仙南地域は、近世には奥州街道、笹谷街道等の広域交通網が交差するとともに、阿武隈川による水運等、水運・陸運の両面から広域交通の利便性の高い地域で、現在でも東北本線等の鉄道網や福島・宮城・山形を結ぶ国県道が充実している地域です。

村田町は、この広域交通の地理的特性を活かし、かつて紅花などの売買による流通で栄えた商家町に由来し、今でも店蔵と門を持つ建物が建ち並ぶ歴史的な町並みが継承されています。近代化に伴い、その周辺に公共施設等の立地が進み、商家町として栄えた歴史性を継承する町場とその周囲により、村田町の中心を担う市街地景観が広がっています。

丸森町や角田市は、阿武隈川の水運による流通上の拠点となる町場や中継地として栄えた歴史を有する町です。現在では、水運の機能は鉄道に代わり失われており、丸森町には川湊の痕跡と、水運に代わるライン舟下りが行われているものの、川との関わりはわずかになっています。しかし、それぞれの市街地内には、水運で栄えた歴史を今に伝える店蔵等の歴史的な建物が残っており、その歴史性

をゆるやかに継承した市街地景観が形成されています。

3) かつての街道の往来を支えた宿場町の風情を残す町場・集落地

仙南地域には、近世に東北の大動脈である奥州街道、仙台と山形を結ぶ笹谷街道（紅花街道・羽前街道も含む）、福島から宮城を經由して山形に結ぶ七ヶ宿街道が整備され、それぞれに数多くの宿場町が形成されました。

なかでも大河原町の中心部は、奥州街道の大河原宿に由来し、今でもかつての街道であった通り沿いには宿場町の名残を残す建物等が見られます。大河原町は、この宿場町を中心に、街道が担った交通機能が国道や鉄道へと変わったことにあわせ、駅周辺や国道沿いへと市街地が広がり、現在の市街地景観が形成されています。

その他、奥州街道の宿場町としては、白石市の白石宿や柴田町の槻木宿等も形成されましたが、いずれも近代化に伴う市街化の過程でその面影を失い、今では景観からその特徴を見つけることは難しくなっています。

七ヶ宿町は、蔵王連峰の山間に位置し、町内をかつては七ヶ宿街道が通り、その名前の通り7つの宿を有していました。街道の道筋は現在の国道へと変わる中、ダム整備に伴いかつて宿場町であった集落1地区は失ってしまうものの、その他の集落は、生活様式等の変化により町並みは緩やかに変化しつつも、街道と点在する集落地の関係は維持され、街道沿いの町らしい景観が継承されています。



▲掘割と武家屋敷地（白石市）



▲街道沿いの宿場町の名残（大河原町）



▲紅花で栄えた蔵の街並み（村田町）



▲阿武隈川ライン下り（丸森町）

3. 景観形成に係る課題

(1) 景観形成のための3つの視点

宮城県全域を対象とした景観づくりの基本方針を示す「宮城県美しい景観の形成に関する基本的な方針」では、下に示す3つの美しい景観形成に関する基本目標を定めています。

-宮城県美しい景観の形成に関する基本的な方針における基本目標-

- ・豊かな景観資源としての自然，歴史，文化を保全し継承していくために，宮城の個性を表徴する景観を「まもる」
- ・地域の特性を生かし，個性ある景観を創造していくために，快適で魅力ある景観を「つくる」
- ・県民意識の醸成と参加による景観づくりを育成していくために，景観形成を支える意識を「育てる」

このように，景観形成について考えていくには，景観を構成している地域の風土やそれを創り出す自然的，歴史的，文化的な景観構成要素を「まもる」視点，地域の風土を守りながらもより魅力的な景観を「つくる」視点，住民や企業等の景観づくりに対する意識を「育てる」視点が重要となります。

(2) 仙南地域における景観形成に係る課題

仙南地域の景観特性を踏まえ、仙南地域における景観形成に係る課題を下記のとおり整理します。

① 「まもる」ための課題

課題1：蔵王を中心に形づくられる自然景観の保全

蔵王の山並みやその活動によって形成されてきた多様な自然景観は、仙南地域の景観を形成する土台となるものです。また、その美しい景観は、古くから蔵王信仰とともに人々の心の拠り所になるだけでなく、広く訪れる者を魅了し地域に賑わいをもたらすなど、地域のみならず県民共有の資産と言えます。そのため、気候の変化による影響が懸念されるものの、蔵王を中心とする自然景観を大切に保全し、残していくことが重要です。



▲冠雪の蔵王連峰



▲水面と蔵王連峰

課題2：仙南の自然とともに生きる人々がつくる景観の継承

蔵王の自然からの恵みを享受し発展してきた生業や、蔵王の自然とともに暮らしてきた人々の営みは、仙南地域の景観を創り出してきた重要な景観構成要素となっています。蔵王の麓に広がる田畑や自然を生かした公園などは、地域の人々の営みによって支えられ、周辺の景観と一体となって一つの景観を創り出しています。そのため、これらの景観を残すためには、仙南地域全域や一つの景観を創りだしているまとまりにおいて、人々の営みを絶やさず、後世に受け継いでいくことが重要です。

また、人々の生活とともに創られた歴史的な建造物等や祭りなどの活動も景観を構成する大きな要素です。このような景観も継承されるよう、受け継いでいく必要があります。



▲田園風景と蔵王連峰



▲菜の花畑と蔵王連峰

②「つくる」ための課題

課題3：仙南地域の魅力を高める景観づくり

歴史的文化的な街並みや人々が築き上げ、日々の生活の魅力を高めている公園等の景観は、時間の経過や人々の活動により、その魅力が失われていくことがあります。そのため、適正な維持管理や景観を阻害する要素を排除することなどにより景観を損なわないようにするとともに、さらに魅力を高めるような取組も大切です。

また、「蔵王」の景観としての魅力を高めるには、仙南地域全体で調和がとれた景観を形成していく必要があります。そのため、広域圏で一体となった景観づくりの方針やルールの下、地域が連携して景観づくりに取り組むことが重要です。特に、複数市町に跨る鉄道、幹線道路や河川沿いは、線的に統一した方針やルールを定めることが重要です。また、視点場となる公園等の空間、休憩スペース、道路、歩行者路等からの見え方について、移動の有無や移動の速さを考慮して視対象となる景観と一体となった景観づくりを進めることが重要です。



▲七ヶ宿公園



▲みちのく杜の湖畔公園

課題4：景観の活用による地域の活性化

景観は、人々の賑わいにより支えられる面もあります。また、外から訪れる人々に地域の景観の魅力をあらためて気付かされることもあります。しかし、その魅力が十分伝わらないと、訪れる者も少なくなり、その価値を十分に活かせなくなってしまいます。そのため、賑わいを創出する「仕かけ」や景観の魅力を積極的に発信することにより交流人口の増加を図るなど、地域の活性化に取り組むことが必要です。また、来訪者に効果的に仙南地域の魅力を訴えるために、地域全体が連携して取り組むことが重要です。



▲柴田町・大河原町さくら祭りのにぎわい ※大河原観光物産協会提供

③「育てる」ための課題

課題5：景観価値の認識と社会的意識の向上

仙南地域では蔵王連峰を中心とした魅力的な景観が見られるものの、必ずしも住民がその魅力を認識していないことや、社会生活上の快適性や効率性を優先するあまり、魅力的な景観が損なわれることなどが懸念されます。そのため、魅力的な景観を失うことなく継続的に景観形成が図られるよう、景観形成への意識を醸成していくことが重要です。



▲景観に関する普及活動の例

課題6：景観形成のための体制づくりと気運の醸成

良好な景観を継続的にまもり、つくるためには、景観形成に関する共通認識の下、行政・住民・企業等が連携しながら進めていくことが不可欠です。そのため、住民・企業が景観形成に係る取組に参画するための仕組み・体制づくりが必要です。また、そのためには地域住民が景観づくりに参加しやすい気運を醸成することが必要です。



▲景観まちづくりのためのワークショップ等（みやぎ景観アドバイザー制度の活用例）

第2章 景観形成に係る基本理念と方針

1. 基本理念

仙南地域の景観の現況や課題を踏まえ、景観づくりの基本理念として、次の3つを掲げます。

◇蔵王の山岳景観を象徴とした山や川が織り成す自然景観と、仙南地域の風土とともに人々が生きてきた歴史・文化、営みが一体となって作りだしている景観は、仙南地域らしさを表徴するものであり、その姿が失われないうよう保全、継承します。

◇仙南地域の景観は、地域に賑わいをもたらすものであり、その魅力を高めるよう景観づくりを進めるとともに、地域の活性化にも資するようその活用を図ります。

◇蔵王とともに育まれた人々の営みが作りだす景観は、仙南地域らしさを表わすものであるという認識の下、その誇りを受け継ぎながら、景観形成に取り組みます。

2. 基本方針

景観づくりの基本理念のもと、次の6つの基本方針を定めます。

(1)「まもる」ための基本方針

基本方針1：地域の共有資産である蔵王を中心とする自然景観を保全します

蔵王を中心とする自然景観は、古くから地域の人々の営みとともに大切に守られてきました。その美しく雄大な景観は地域に住む人々だけではなく、訪れる者も魅了するものとなっており、県全体の共有の財産といえます。これら自然景観の保全には、地域全体で共通した認識の下、市町の区域を超えて、景観形成に取り組んでいきます。



▲蔵王の自然による代表的な景観である滑津大滝（左）、三階滝（右）

基本方針2：地域の人々の営みの中で長きに渡り創られてきた景観を継承します

山間部の牧場や果樹園、河川周辺の田園などの生業、気候風土に適応した生活など、蔵王の自然環境を土台に、人々の営みが創ってきた景観は、仙南地域をより魅力的なものにしています。また、地域のどこからでも見ることができる蔵王の姿は、地域の人々の生活の背景として、受け継がれてきました。これらの景観を形づくる人々の生業や営みを仙南地域全体、またはひとまとまりの景観を形成する広範囲において一体的に継承していくことが必要であり、そのための支援をしていきます。また、蔵王の美しい姿が望める魅力的な眺望など、仙南地域の特徴が顕著な景観については、景観形成のルールをつくることなどにより保全・継承を図ります。



▲人々の営みによる桜並木と蔵王



▲人々の営みによる田園と蔵王

(2)「つくる」ための基本方針

基本方針3：仙南地域に調和した魅力ある景観を創出します

長い歴史を経て仙南地域に受け継がれてきた自然や街並みは、地域の成り立ちを示す個性的な景観です。これらの景観の魅力を損なうことなく、より一層引き出すことができるよう景観づくりに取り組んでいきます。同時に、蔵王連峰や阿武隈川・白石川、道路等については、一体的な景観づくりを図ることができるよう、そのルールについて考えていきます。また、視点場となる公園、休憩スペース、道路や歩行者路については、視対象となる景観をより魅力的に見ることができるような空間づくりに取り組んでいきます。

景観を構成する上で大きな役割を占める建築物や工作物については、周囲の景観と調和し、また魅力向上につながるよう、整備や管理に取り組むとともに、景観を阻害する要素となる工作物や広告物を抑制するなど、よりよい景観の形成を図っていきます。

基本方針4：景観の魅力を生かし、地域の活性化につながるよう活用します

仙南地域の大切な景観を地域の中で受け継いでいくことはもちろん、来訪者に対してもその魅力を享受することができるよう景観の形成を図ります。そのため、景観の魅力を効果的に発信するとともに、景観の活用のための「仕かけ」づくりをするなど、交流人口の増加を図っていきます。

また、地域の賑わいを創出するため、景観を生かした地域の行事や祭事等、活性化につながる景観の形成を図ります。



▲自然景観を活かす仕かけづくりの例
(材木岩周辺)



▲景観を活かした行事の例
(鬼小十郎祭り)

(3)「育てる」ための基本方針

基本方針5：景観価値を認識し，共有の資産であるという社会的意識を育成します

仙南地域の景観を共有財産として受け継いでいくために，地域住民が景観の価値を認識し，誇りをもって景観づくりに関わっていくよう，意識の育成を図ります。

また，ゴミの散乱や周囲に調和しない建造物の設置等，景観阻害要因を発生させないための意識づくりを行います。



▲景観形成のための取組例
(白石市清掃ボランティア)

基本方針6：景観形成のための体制づくりと気運の醸成を図ります

行政・住民・企業等が連携しながら景観づくりを進めていくために，それぞれの役割を明確にするとともに，景観形成のルールづくりや推進体制の構築などにより，意識の高揚，気運の醸成を図っていきます。

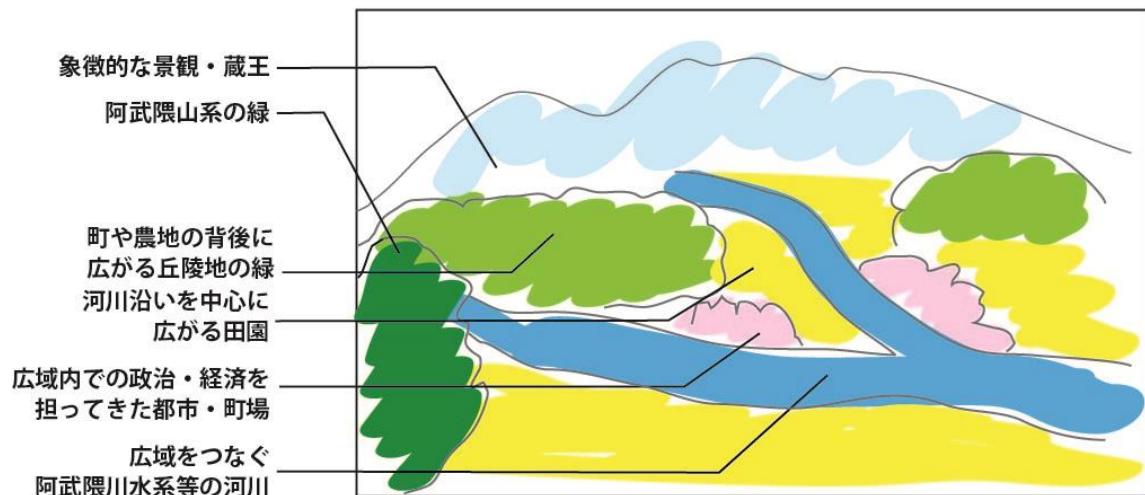


▲行政による広域連携体制の例
(仙南広域景観協議会)

3. 仙南地域の景観構造

広域的観点からみた仙南地域の景観の特性をふまえ、景観構造として、仙南地域の景観構造について、そのイメージ（概念）と（空間）構造により、その特徴を整理します。

（1）仙南地域における広域景観のイメージ



仙南地域の広域景観としての概念は、大きく5つの要素からなると考えます。

仙南地域を表徴する最も広大な要素として、象徴的な景観地である蔵王や阿武隈山系の緑（樹林地等）が挙げられます。これはいわゆる山地景観として、仙南地域を包み込むようにある景観要素です。

また、蔵王山麓や阿武隈山系の延長に位置する丘陵地の緑（樹林地等）が挙げられます。これらは、町や農地の背景となる身近な緑としての景観要素です。

阿武隈川や白石川等の河川沿いに広がる田園も仙南地域を表徴する要素として挙げられます。広がりのある平地における営みが創り出す田園（農地と集落）は、仙南地域の平野部における広域景観を特徴づける大きな景観要素です。

さらに、限られた平野部に形成された都市・町場が挙げられます。古代から人々の営みが続く仙南地域において、中世から近世にかけて政治・経済を担ってきた都市・町場は、仙南地域内の交通ネットワーク上に分布しており、時代とともにその役割は変化するものの、仙南地域の市街地を特徴づける重要な景観要素となっています。

最後に、これらをつなぐ軸（ネットワーク）として、阿武隈川水系等の河川が挙げられます。空間的な連続性のみならず、歴史的な観点からは機能的にも広域を結ぶ重要な役割をはたしてきた景観要素であり、仙南地域における水辺を特徴づける景観要素となっています。

(2) 仙南地域の広域景観の構造

仙南地域の広域景観のイメージを空間構造として図示したものが、下の図になります。

蔵王連峰（奥羽山脈）や阿武隈山系からなる「蔵王・阿武隈山地ゾーン」が仙南地域を包み込み、その中に心的・空間的象徴性をもつ蔵王が位置し、仙南地域のどこからでもその山容を眺めることができます。

蔵王山麓や阿武隈山地の延長には「丘陵地景観ゾーン」が広がり、特徴ある農の営みや歴史的な山城等の景観が見られます。

仙南地域内には、阿武隈川や白石川、松川等の「河川軸」が通り、その周辺の平地には「田園景観ゾーン」が広がり、豊かな農の営みが広がっています。

この平野や河川軸を活かし、「歴史的な都市・町場」が形成され、これらを核に現在の市街地が形成されています。この市街地間を結ぶ交通網として、かつての街道から現在の国県道や鉄道網が整備されることにより「交通・流通軸」が仙南地域内外をネットワークし、仙南地域における人々の営みを支えています。

仙南地域の広域景観の構造



▲仙南地域の広域景観の構造図

▼（参考）見えない景観の構造／地域の文化と景観のまとめり（領域性）

景観構造には、地形や土地利用をベースとした空間的な観点からみえてくる景観的な領域（景域）と、人々の営みの中で育まれる文化として見える景観を支える目に見えない領域性（コミュニティの単位や人や集落・地区間におけるつながり等）がつくりだす景観のまとめりがあります。

地域の文化には、その地域内で慣習として行われている行事や、地域独自の季節ごとの行事・イベント、年末年始やお盆・お彼岸等の特殊な習慣などが挙げられます。これらは行事や祭礼を行う場には、それぞれ市街地や集落としての景観のまとめりが見られるとともに、その行事等を行う人々のまとめりやつながり（例：コミュニティの単位等）がその景観形成にはとても重要な意味をもっており、そこには一定の領域性があります。そのため、この目に見えづらい領域性もまた、空間的な領域性とあわせ、そのまちらしい景観を形づくる見えない景域を構成する一部となっています。

地域独自の年中行事や慣習等は、時代により物的な目に見える景観が変化する中で、その地域としてのまとめりや領域性を確認することができる1つの要素であり、地域ごとの愛着や誇りを共有する景観まちづくりの単位とも大きく関係します。地域の景観づくりに取り組む際には、単に目に見える環境のみで考えるのではなく、これら見えない領域がつくりだす景観のまとめりについても目を向ける必要があります。

なお、これらは、地域ごとに細かく分かれ、その単位により重層性も持つものです。今後、本計画において広域景観の意識共有が図られ、地域の景観づくりに取り組む段階においては、各地域で文化・慣習をふまえながら、地域らしさを大切にする景観の形成を図っていくことが望まれます。

【年中行事と地区の関係（例）】

●金津七夕（角田市 金津地区）

藩政時代から続く「金津七夕」は、金津地区の6歳から15歳までの子どもが「カラオクリ」と呼ばれる竹飾りを持って地区内を練り歩く民俗行事です。これは、星祭りである七夕とは別に、邪霊を鎮送する送り行事と考えられており、県の指定民俗文化財風俗慣習となっています。



▲金津七夕の様子

●小山田やすとこ（大河原町）

やすとこは、米沢城下で婚礼の際の祝宴に唄われていたもので、仙台から大河原の小山田に伝わりました。戦前は緋（かすり）の振袖で踊られていましたが、戦後になると田植え時の早乙女姿で踊られるようになり、町の指定無形民俗文化財となっています。



▲小山田やすとこ

4. ゾーン別の景観形成方針

仙南地域の広域景観の構造をゾーン別に整理し、6つの基本方針に基づき、それぞれのゾーンに対する景観形成の方針を定めます。

(1) 蔵王・阿武隈山地ゾーン

○景観を形成するエリア

- ・蔵王・阿武隈山地の山並み景観を構成する高山地・丘陵地及び森林
- ・阿武隈川、白石川の渓谷部およびその周辺
- ・大きな水面をたたえるダム湖とその周辺

○景観形成方針

蔵王周辺の自然環境の保全

- ・蔵王の景観を特徴付ける地形や植生を保全するため、自然公園等に係る規制と調整を図りながら、地形改変や生態系への影響のある行為をできる限り避けます。
- ・森林の伐採を最小限にとどめるとともに、保全のための造林や保育を適切に行います。

眺望景観の保全

- ・「みやぎ蔵王三十六景」等の蔵王への優れた眺望景観については、眺望を阻害する建造物等の適切な誘導や除去により保全を図ります。

蔵王の魅力を楽しむための環境づくり

- ・蔵王の特徴ある景勝地等については、訪れる者がその魅力を楽しむよう環境を整備します。
- ・スキー場やキャンプ場、公園、宿泊施設等のレクリエーション施設については周辺景観との調和を図りつつ、賑わいを創出するための取組を行います。

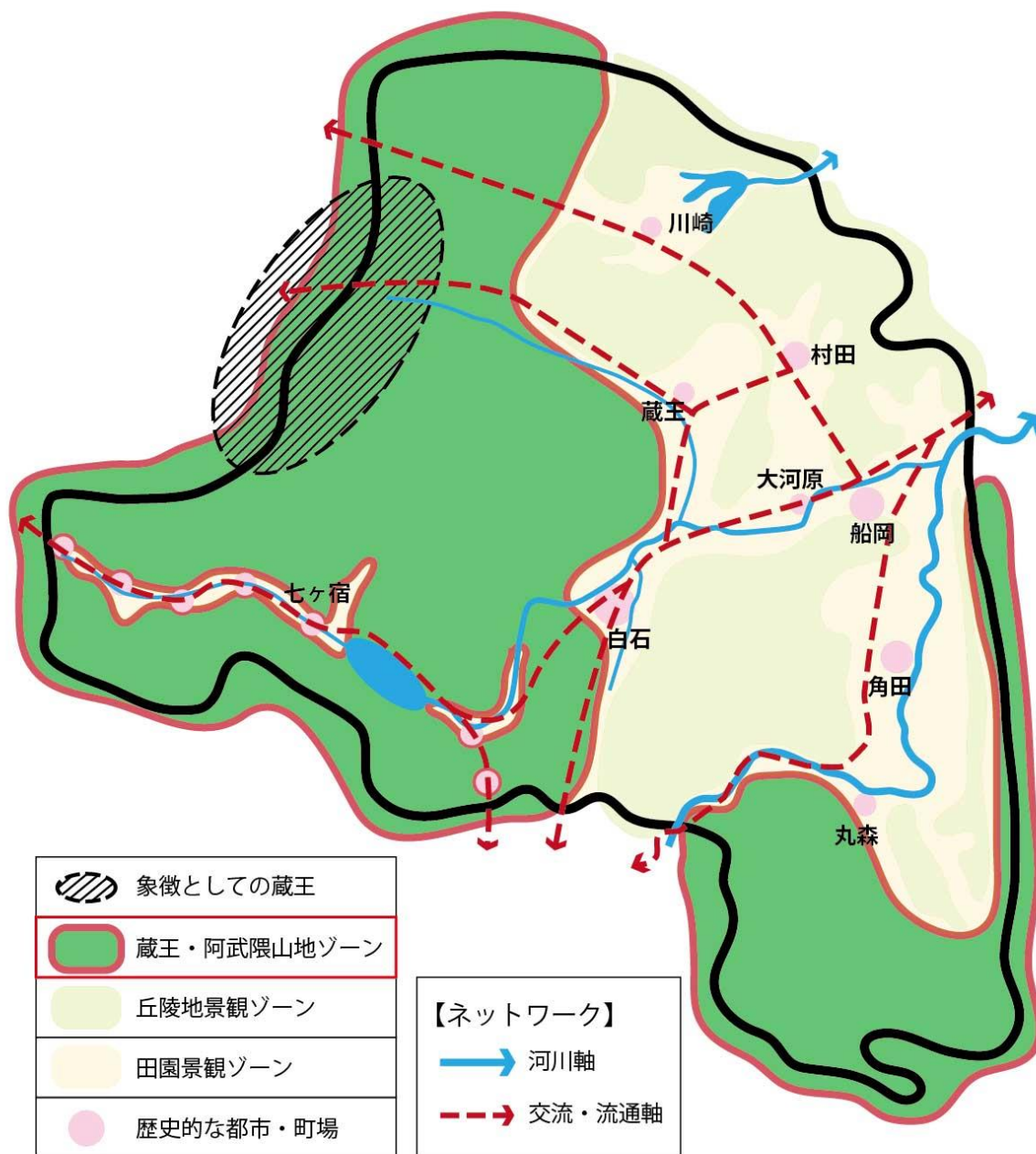
自然を保全するための人々の関わり

- ・蔵王における景観づくりの意義を伝えるために、幼少期から蔵王の自然に触れ合う機会を設けるとともに、蔵王を中心とした仙南地域の歴史と文化を伝え、意見交換を行う場を積極的に設けることで景観に対する誇りの醸成を図ります。

自然を活用したレクリエーション空間の適正管理

- ・山間部や河川敷等に形成される自然を活用したレクリエーション空間については、周辺景観と調和したものにするとともに、賑わいを創出するための取組を行います。

仙南地域の広域景観の構造



▲仙南地域の広域景観の構造図
 (1) 蔵王・阿武隈山地ゾーン

(2) 丘陵地景観ゾーン

○景観を形成する範囲

- ・蔵王山麓に展開する果樹や畜産の生業
- ・蔵王・阿武隈山地ゾーンよりも低平な丘陵地
- ・平野部の際に迫る里山

○景観形成方針

丘陵地を彩る生業による景観の保全

- ・蔵王山麓の気候を生かした果樹園や畜産等の生業による景観を保全するために、生業の継承を図るとともに、観光客の集客による賑わいを創出します。

蔵王の自然に対応し形成された集落景観の保全

- ・蔵王の厳しい自然に対応するために形成されてきた特徴的な集落景観を保全するために、樹林等を保全するとともに、伝統的な家屋外観の承継に努めます。

人々の営みを継承するための意識醸成

- ・人々の営みより育まれてきた景観が、日々の生活をまもり、魅力を高めていることや、それそのものの楽しみについて伝えるための機会を設けます。

視点場の維持・魅力向上と発掘

- ・公園、休憩スペースや道路、歩行者路といった視点場については、視対象となる景観に配慮した空間の維持管理や魅力を高める空間づくりを行います。
- ・行政間や地域住民との意見交換の中で、仙南地域の景観をより美しく見ることができるとして視点場を発掘します。

仙南地域の広域景観の構造



▲仙南地域の広域景観の構造図
(2) 丘陵地景観ゾーン

(3) 田園景観ゾーン

○景観を形成する範囲

- ・平野部や河川沿いの低地に広がる田園

○景観形成方針

広がりのある田園景観の保全

- ・蔵王の恵みである川の流れによって形成された平野部に広がる田園景観を保全するために、稲作の継承を図ります。
- ・農業振興地域等に係る規制と調整を図りながら、農地を確保するとともに、田園景観を阻害する建造物等の規制誘導を図ります。
- ・農業施設等については、周辺景観に調和した整備を行うとともに、適切な維持管理を図ります。

蔵王の自然に対応し形成された集落景観の保全

- ・蔵王の厳しい自然に対応するために形成されてきた特徴的な集落景観を保全するために、樹林等を保全するとともに、伝統的な家屋外観の承継に努めます。

視点場の維持・魅力向上と発掘

- ・公園、休憩スペースや道路、歩行者路といった視点場については、視対象となる景観に配慮した空間の維持管理や魅力を高める空間づくりを行います。
- ・行政間や地域住民との意見交換の中で、仙南地域の景観をより美しく見ることができる視点場を発掘します。

人々の営みを継承するための意識醸成

- ・人々の営みより育まれてきた景観が、日々の生活をまもり、魅力を高めていることや、それぞれのものの楽しみについて伝えるための機会を設けます。

仙南地域の広域景観の構造



▲仙南地域の広域景観の構造図

(3) 田園景観ゾーン

(4) 歴史的な都市・町場

○景観を形成するエリア

- ・旧街道沿道に形成された城下町や宿場町等の町並み
- ・古くから温泉の利用と観光で発展してきた温泉街
- ・地域の信仰により受け継がれてきた寺社仏閣及びその周辺
- ・仙南地域の文化を発信するイベント空間

○景観形成方針

歴史的町並みを活かした景観形成

- ・城下町，商家町，川湊，宿場町，温泉街といった仙南地域の歴史文化を表徴する町並み景観の保全や，各地区の景観特性に即した景観整備，規制誘導を図り，歴史的街並みを生かした景観形成を図ります。

信仰の場の保全

- ・蔵王信仰をはじめとした地域の信仰等の場となる寺社仏閣やその周辺の景観を保全するために，各地区の景観特性に即した景観整備，規制誘導を図ります。

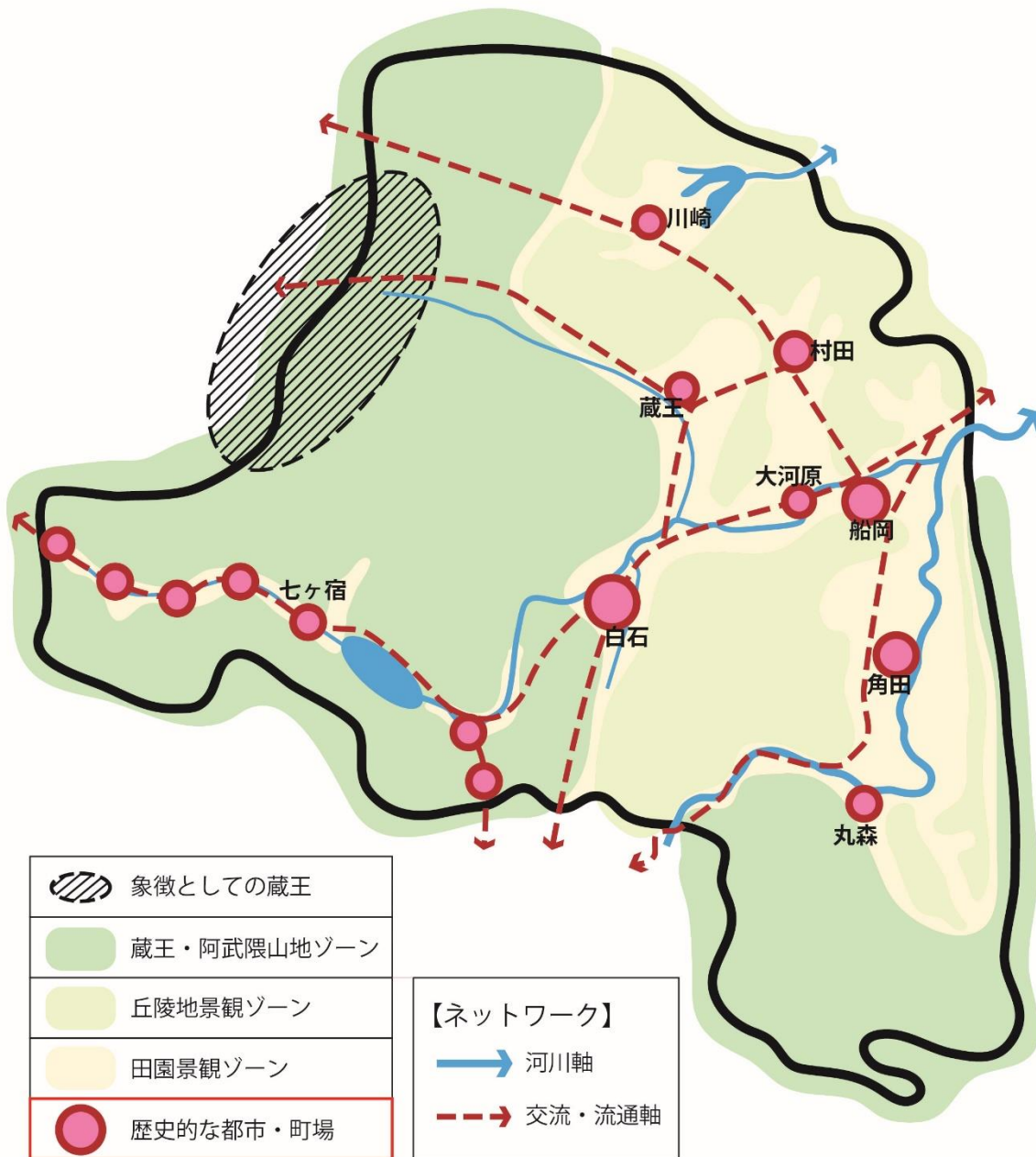
イベント空間の保全

- ・仙南地域の文化を通じて魅力を発信するイベント空間となっている場所については，適正な維持管理を図るとともに景観整備により魅力を高めます。

景観づくりへの住民参加

- ・住民の参加による街並みの美化や景観形成を進められる環境を整えます。

仙南地域の広域景観の構造



▲仙南地域の広域景観の構造図
 (4) 歴史的な都市・町場

(5) ネットワーク

○景観を形成するエリア

- ・阿武隈川・白石川の河川軸
- ・高速道路，国道，県道などの交流・交通軸

○景観形成方針

①河川軸

河川等の公共施設周辺の適切な管理

- ・河川の構造物については，周辺の景観に調和したものとし，適切な管理により景観を阻害しないよう図ります。

自然を活用したレクリエーション空間の適正管理

- ・山間部や河川敷等に形成される自然を活用したレクリエーション空間については，周辺景観と調和したものにするとともに，賑わいを創出するための取組を行います。

②交流・流通軸

道路等の公共施設周辺の適切な管理

- ・蔵王周辺の道路の構造物については，周囲の景観に調和したものとし，適切な管理により景観を阻害しないよう図ります。

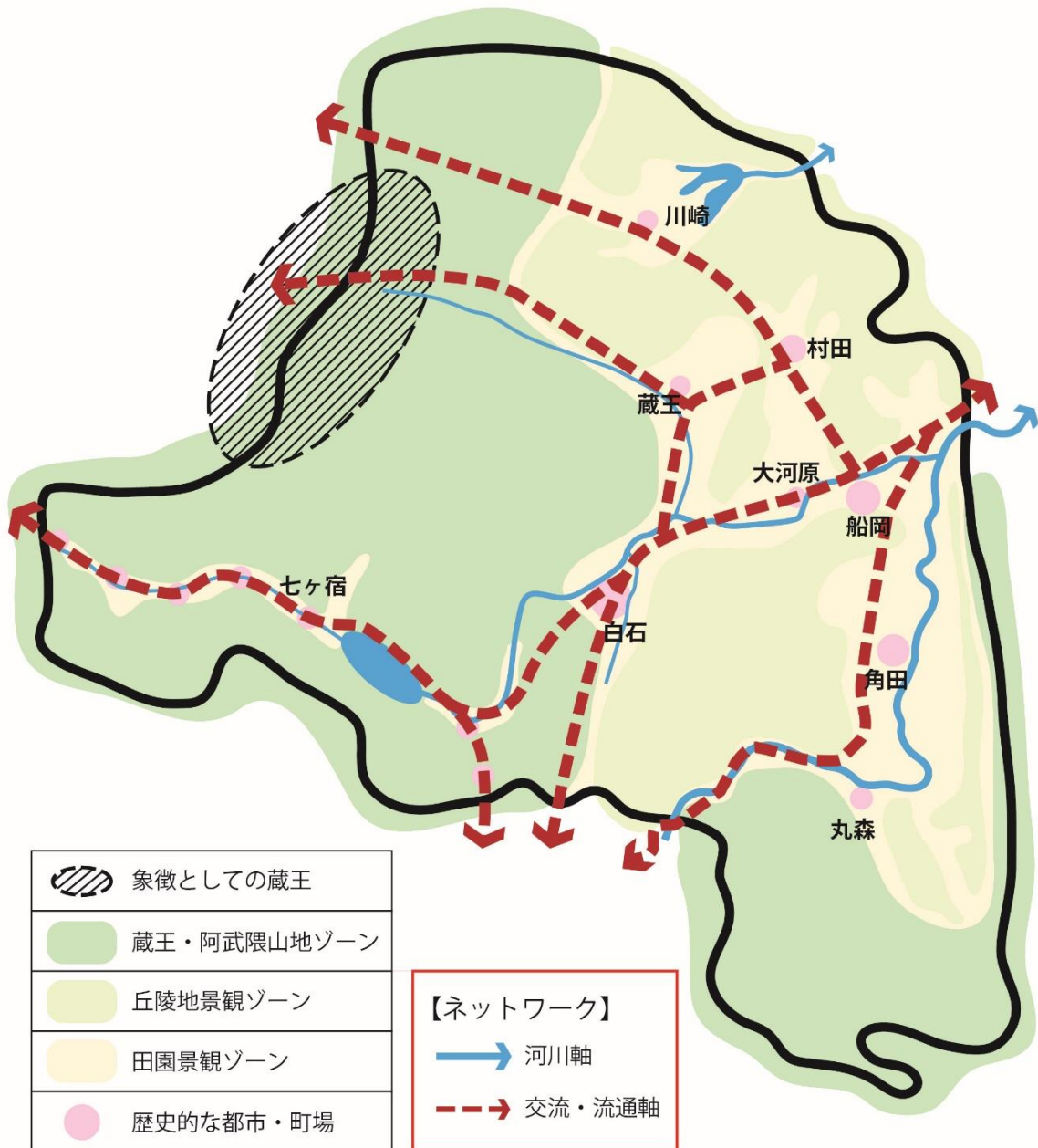
広域内をネットワークする主要な道路における沿道景観の形成

- ・広域内をネットワークする道路の沿線については，周囲の景観を阻害しないよう建築物，工作物，屋外広告物等について適切な誘導を図ります。

まちの玄関口となる鉄道駅前の景観形成

- ・鉄道駅前の景観については，まちの玄関口としてふさわしい景観形成を図ります。

仙南地域の広域景観の構造



▲仙南地域の広域景観の構造図

(5) ネットワーク

第3章 重点的な取組

1. 景観重点区域における景観形成に向けて

(1) 景観重点区域について

仙南地域の景観は、第1章2で示したように、広域的観点から見た際には、大きく3つの景観特性をもっています。

- | |
|---------------------------------|
| 特性1 蔵王連峰を中心に広がる雄大かつ象徴的な自然景観 |
| 特性2 仙南の風土とともに生きる人々の営みがつくり出す景観 |
| 特性3 水陸交通の要衝を担った歴史性を継承する都市・町場の景観 |

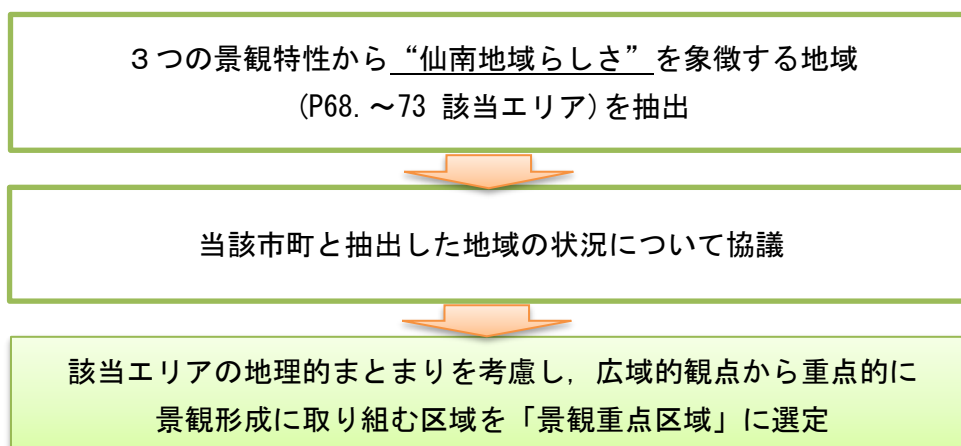
この3つの大きな特性の総体が、“仙南地域らしさ”を感じさせる景観を形づくっているといえます。

複数の市町からなる広域における景観形成には、広域全体を対象にその景観の保全・形成に取り組むケースもありますが、本県では、“仙南地域らしさ”を活かした景観の取組には、広域的観点から見える3つの景観特性を象徴的に目にすることができる地域について、県・市町・住民・事業者の間において大事なエリアであることを共有し、継続的な取組につなげることが重要であると考えます。

そこで、本計画では、“仙南地域らしさ”を象徴する地域を抽出し、当該市町と抽出した地域の状況について協議を重ねた上で、広域的観点から重点的に景観形成に取り組む区域について「景観重点区域」を選定します。

この景観重点区域では、景観法に基づく景観計画を始め、各地域の実情に応じた景観形成の取組を進めていくものとします。

なお、この広域的観点から重要である「景観重点区域」の選定をきっかけに、今後は、各市町が景観行政団体となることにより、地域の人々と一体となった持続的かつきめ細やかな景観まちづくりの取組へと展開するよう、県と市町が協力・連携を図っていくものとします。



▲景観重点区域の抽出フロー

2. 景観重点区域の選定

(1) 仙南地域において景観特性を代表するエリアの抽出

3つの景観特性ごとに、その特性を代表する景観地について抽出・整理します。

景観特性	該当エリア	景観概況	
特性1 蔵王連峰を中心に広がる雄大かつ象徴的な自然景観	1) 蔵王火山の活動による雄大かつ特徴的な地形美	①蔵王火山及び蔵王エコーライン(蔵王町) <ul style="list-style-type: none"> ・御釜を中心とする地蔵山, 熊野岳, 刈田岳などからなる蔵王火山には, 複雑な地形が作り出す特徴的な景観が広がる。蔵王町のジオパークの取組において「蔵王火山ジオサイト」としてコアを担う景観地である。 ・エリア内には, この特徴的な景観を楽しめる観光ルートとして, 蔵王エコーラインが整備され, 多くの人を訪れる蔵王を代表する景観地である。 	
		②長老湖(七ヶ宿町) <ul style="list-style-type: none"> ・不忘山の裾野に位置する長老湖は, かつては小さな沼であったが, 発電用に拡張され, 現在では, やまびこ吊り橋が東北随一の吊橋として知られ, 吊橋から不忘山への風光明媚な眺めが, 広く知られる景勝地である。 	
	2) 神宿る地としての象徴性と山容への眺め	—	※仙南地域のあらゆる場所から山容への眺めはあり, 象徴的な場所を設定するのは難しい。景観形成の方向性として, 他のエリアにおける蔵王への眺めという観点を付加することとする。
	3) 水資源を支える豊かな自然環境	③七ヶ宿湖(七ヶ宿町)	・白石川の上流に整備された水源地であるダム湖で, 周囲には自然休養公園や道の駅等の来訪者施設が整備され, 自然景観をレクリエーションと共に楽しむ景観地である。
		④釜房湖(川崎町)	・名取川の上流に整備された水源地であるダム湖で, 周囲にはみちのく杜の湖畔公園が整備され, 自然景観をレクリエーションと共に楽しむ景観地である。

景観特性		該当エリア	景観概況
特性1 蔵王連峰を中心に広がる雄大かつ象徴的な自然景観	4) 阿武隈川や白石川等による豊かな水を湛える河川景観	⑤阿武隈川沿い (丸森町)	・阿武隈川が宮城県に入る地点で、蛇行しつつ徐々に川幅を広げる。広がりのある水面、蛇行とともに形成される瀬淵、兩岸を結ぶ橋と、周囲の市街地や農村集落が一体となって、穏やかな河川景観を形成している。
		⑥阿武隈川沿い (角田市)	・阿武隈川が緩やかに蛇行を繰り返しながら、水面と河川敷、周囲の市街地や農村集落が一体となって穏やかな景観を形成している。特に、角田橋周辺では、河川敷の菜の花や桜並木が一体となり、春には遠く蔵王連峰が一体となった河川景観を形成している。
		⑦白石川沿い (大河原町～柴田町)	・阿武隈川との合流地点よりもやや上流に位置する白石川沿いでは、河川堤防に「一目千本桜」が整備され、広がりのある川の流れと遠くに見える蔵王連峰が一体となった河川景観を形成している。

景観特性		該当エリア	景観概況
特性2 仙南の風土とともに生きる人々の営みがつくりだす景観	1) 高原から低地まで変化する地形に応じた多様な農の営み	①北原尾地区 (蔵王町)	・蔵王山麓の扇状地形が広がる中、開拓により牧場が整備され、蔵王の自然と酪農の営みが一体となった景観が広がっている。
		②松川沿いの農村集落 (蔵王町)	・蔵王から白石川へと流れこむ松川沿いの段丘地では、果樹栽培がおこなわれており、蔵王町から遠刈田温泉につづく県道沿いにおいて、果樹園と集落が連続する特徴ある農村景観を形成している。
		③高倉川沿いの農村集落 (角田市)	・高倉川の穏やかな流れと集落の人々によって大切に保存されている周辺の水田地帯、川岸に植えられた桜やその向こうにある農村集落と里山が一体となって、穏やかな農村景観を形成している。また、周辺地域には高蔵寺が鎮座し、付近に高倉農村公園が整備され、憩いの場となっているなど、多様な要素により豊かな表情の農村景観を形成している。

景観特性		該当エリア	景観概況
特性2 仙南の風土とともに生きる人々の営みがつくりだす景観	2) 火山と水脈を利用した蔵王山麓の歴史ある湯治文化と温泉地	④小原温泉 (白石市)	・蔵王山麓、白石川が創りだす谷地形の中に形成された湯治場由来の温泉地で、川と木々が織り成す落ち着きのある景観を形成している。
		⑤鎌先温泉 (白石市)	・蔵王山麓で古くから湯治場として栄えた温泉地で、山間の木々の中、路地と旅館が一体となり、かつての湯治場の面影を残す界限性と、土産物として親しまれているこけし製造の文化が継承されている。
		⑥青根温泉 (川崎町)	・蔵王山頂に最も近い温泉地で、丘陵地形のなか、歴史的な建造物である旅館と木々が織り成す落ち着きのある景観が形成されている。
		⑦遠刈田温泉 (蔵王町)	・蔵王詣での拠点として栄えた町場と、旅館や温浴施設が一体となった、蔵王山麓における賑わいある町場の景観が形成されている。
	3) 屋敷や農地を守る屋敷林や防風林が特徴的な農村景観	⑧笹谷街道沿いの田園地域 (川崎町)	・かつての笹谷街道である国道沿いに広がる農村集落では、一定の間隔で防風林が立ち並ぶことにより、農地や集落を守っている、特徴ある農村景観が形成されている。
		⑨横川地区 (七ヶ宿町)	・長老湖に隣接し、木地師集落により形成された山間の農村集落で、集落の通り沿いからは、家屋や農地、それらを守る防風林が一体となった山間の集落景観を形成している。

景観特性		該当エリア	景観概況
特性3 水陸交通の要衝を担った歴史性を継承する都市・町場の景観	1) 地形を活かし整備された城下町の歴史と文化を継承した都市	① 白石城下町 (白石市)	・丘陵部には木造建築による白石城が建ち、城下には豊かな水をたたえる堀や水路が巡る。武家地や町場の名残を残す城下町に由来する市街地景観が形成されている。
		② 船岡城下町 (柴田町)	・かつて山城が配された四保山が中央にそびえ、山麓から白石川沿いにかけて市街地が広がる。城下町の町割の痕跡や、町場として栄えた店蔵等の歴史的な建物が点在し、城下町由来の市街地景観が形成されている。
		③ 川崎城下町 (川崎町)	・丘陵地に城址が残り、平野部に市街地が広がる。城下町の痕跡を残す要素は少ないものの、町場の道筋や町並みから、歴史的市街地の風情を今に伝えている。
	2) 水運・陸運による流通で栄えた商業地	④ 角田市中 心部 (角田市)	・阿武隈川に面して市街地が広がる。かつての城下町の痕跡は市街地内の道筋にわずかに残る。水運の中継地として栄えた歴史は、市街地内に残る店蔵等から読み取れるが、現在は高い河川堤防により川とのつながりが失われている。
		⑤ 丸森町中 心部 (丸森町)	・阿武隈川の水運で栄えた商業都市に由来する市街地が広がる。かつての豪商の店蔵を活用した商店や水運に代わるライン下り等、歴史を活かした景観まちづくりが展開されている。
		⑥ 村田町中 心部 (村田町)	・紅花の取引などでさかえた商家町に由来し、店蔵と門が連続する特徴ある歴史的な町並みが維持されている。

景観特性		該当エリア	景観概況
特性3 水陸交通の要衝を担った歴史性を継承する都市・町場の景観	3) かつての街道の往来を支えた宿場町の風情を残す町場・集落地	⑦七ヶ宿街道と旧宿場町 (七ヶ宿町)	・山間に位置する七ヶ宿町の中央を貫くかつての七ヶ宿街道である国道を軸に、宿場町由来の集落が点在する。白石川の流れと木々、集落が一体となった穏やかな景観が形成されている。
		⑧奥州街道と宿場町 (槻木宿、大河原宿、白石宿) (柴田町、大河原町、白石市)	・仙南地域の大動脈であるかつての奥州街道沿いには、宿場町の名残を今に伝える街並みが残る。近代に入り、宿場町の脇には鉄道駅が配され、道筋も国道へと変化し、広がりのある市街地景観が形成されている。
		⑨笹谷街道と宿場町 (川崎町)	・川崎町の中央を貫くかつての笹谷街道である国道には、街道であった歴史を伝える松並木が連続する特徴ある通り景観が形成されている。

(2) 景観重点区域

(1) で抽出された仙南地域の広域的な景観特性を代表するエリアについて、その地理的まとまりを考慮し、一体的な景観の形成を重点的に図る区域として、以下の16地区について、本計画における「景観重点区域」に選定し、景観の保全・形成に向けた具体的な手法に関する考え方を示します。

	区域名	区域の考え方	景観形成の考え方
1	蔵王火山周辺地区 (蔵王町)	<ul style="list-style-type: none"> 蔵王町が取り組む蔵王ジオパークにおけるコアを担う御釜を中心とした蔵王火山のエリアと、それらへのアクセスルートを担当する蔵王エコーラインからなる区域。 (特性1-①) 	<ul style="list-style-type: none"> 国定公園が指定され、貴重な自然景観の保全・活用が図られており、引き続き、自然公園としての保全・活用を図りつつ、今後、必要に応じて、関係機関と連携・協力しつつ、自然公園法の許可基準を踏まえ検討を行う。
	 <p>★写真位置</p>		 <p>▲御釜 (蔵王町)</p>
2	長老湖・横川地区 (七ヶ宿町)	<ul style="list-style-type: none"> 特徴ある地形美を持つ長老湖周辺や、防風林が特徴的な集落景観を形成している木地師集落由来の横川地区からなる区域。 (特性1-②, 特性2-⑨) 	<ul style="list-style-type: none"> 長老湖周辺には国定公園が指定されていることをふまえ、今後、必要に応じて、関係機関と連携・協力しつつ、自然公園法の許可基準を踏まえ検討を行う。
	 <p>★写真位置</p>		 <p>▲長老湖 (七ヶ宿町)</p>

区域名	区域の考え方	景観形成の考え方
3 七ヶ宿湖・七ヶ宿街道地区 (白石市, 七ヶ宿町)	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な水源地である七ヶ宿湖から, 七ヶ宿街道である国道 113 号沿いに点在する集落にかけて形成される七ヶ宿町の中心を担う区域。 (特性 1 - ③, 特性 3 - ⑦) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県立自然公園として保全・活用が図られる七ヶ宿湖から七ヶ宿町の集落にかけて, 連続する景観の保全・形成に向け, 景観計画区域の指定による自然景観の保全と沿道集落景観の形成を図る。
 <p>★写真位置</p>		 <p>▲七ヶ宿湖 (七ヶ宿町)</p>
4 釜房湖周辺地区 (川崎町)	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な水源地である釜房湖を中心とした地域。 (特性 1 - ④) 	<ul style="list-style-type: none"> ・湖周辺の樹林地については, 自然環境保全地域の指定により一定の環境保全を図るとともに, みちのく杜の湖畔公園周辺については, 湖及び周辺の樹林地との一体的な景観形成に向け, 景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。
 <p>★写真位置</p>		 <p>▲釜房湖 (川崎町)</p>

	区域名	区域の考え方	景観形成の考え方
5	川崎町中心部地区 (川崎町)	<ul style="list-style-type: none"> かつての笹谷街道である国道 286 号周辺に広がる防風林が特徴的な沿道の農村集落と、それに連なる川崎町の中心部を担う旧城下町に由来する市街地からなる区域。 (特性 2-⑧, 特性 3-③, 3-⑨)	<ul style="list-style-type: none"> 国道 286 号から町の中心部にかけて形成されている、川崎町の景観について、その特性を継承できるように、景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。  <p>▲防風林 (川崎町)</p>
6	丸森町中心部地区 (丸森町)	<ul style="list-style-type: none"> 阿武隈川の水運で栄えた丸森町の市街地と、その町場と一体的にかつて利用されてきた阿武隈川沿いを含む区域。 (特性 1-⑤, 特性 3-⑤)	<ul style="list-style-type: none"> 仙南地域を代表する水運の町場としての歴史性や阿武隈川との関係性を継承する景観まちづくりのきっかけづくりとして、景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。  <p>▲齋理屋敷 (丸森町)</p>



区域名	区域の考え方	景観形成の考え方
7 角田市中心部地区 (角田市)	<ul style="list-style-type: none"> 城下町に由来し、阿武隈川の水運の中継地として栄えた市街地と、その水運を支えた阿武隈川及び河川敷に整備された桜並木や菜の花等の潤いある空間を含む区域。 (特性1-⑥, 特性3-④)	<ul style="list-style-type: none"> 角田市の歴史性と阿武隈川とのつながりを再認識するきっかけづくりとして、景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。
	 <p>★写真位置</p>	 <p>▲角田市街地(角田市)</p>
8 大河原町・柴田町中心部地区 (大河原町, 柴田町)	<ul style="list-style-type: none"> 交通の要衝として栄えた船岡城下町及び仙南地域を貫く大動脈である奥州街道、それに代わる鉄道や国道沿いに広がる市街地、及び白石川沿いに整備された桜並木が広がる区域。 (特性1-⑦, 特性3-②, 3-⑧)	<ul style="list-style-type: none"> 白石川や街道等、仙南地域の交流の拠点を支えてきた歴史性と、先人たちが作りだした美しい白石川の風景を継承する景観まちづくりのきっかけづくりとして、景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。
	 <p>★写真位置</p>	 <p>▲一目千本桜(大河原町)</p>  <p>▲一目千本桜と船岡城址公園(柴田町)</p>

	区域名	区域の考え方	景観形成の考え方
9	北原尾地区 (蔵王町)	<ul style="list-style-type: none"> 蔵王山麓の扇状地形と高原性の気候風土を活かし、酪農地帯として開拓された区域。 (特性2-①) 	<ul style="list-style-type: none"> 国定公園が指定され、貴重な自然環境の保全と農の営みの両立が図られており、引き続き、自然公園としての保全・活用を図りつつ、今後、必要に応じて、関係機関と連携・協力しつつ、自然公園法の許可基準を踏まえ検討を行う。  <p style="text-align: center;">▲北原尾（蔵王町）</p>
10	遠刈田温泉・ 農村集落地区 (蔵王町)	<ul style="list-style-type: none"> 蔵王詣での拠点を担った遠刈田温泉の町場及び蔵王詣でにおける重要なルートを担当してきた県道白石上山線沿いの市街地及び松川沿いの段丘地を中心に広がる農村集落からなる区域。 (特性2-②, 2-⑦) 	<ul style="list-style-type: none"> 蔵王町の産業である果樹園栽培や遠刈田温泉の町場にかけて、松川及び県道により連続する蔵王町らしさを活かした景観形成にむけ、景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。  <p style="text-align: center;">▲遠刈田温泉（蔵王町）</p>
	 <p>★写真位置</p>		
	 <p>★写真位置</p>		

区域名	区域の考え方	景観形成の考え方
11 高倉川農村集落地区（角田市）	<ul style="list-style-type: none"> 高倉川を軸として広がる周辺の水田，農村集落，里山までを包括し，高蔵寺や高倉農村公園を含んだ一体的な農の営みが見られる区域。（特性2-③） 	<ul style="list-style-type: none"> 高倉川を中心に広がる穏やかな農村・里山景観と，その中で行われている地域住民による取組が作り出す景観について，これからも大切に守られ，それぞれがさらに魅力的なものとなるような景観まちづくりのきっかけづくりとなるよう，景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。
 <p>★写真位置</p>		 <p>▲高倉農村公園（角田市）</p>
12 小原温泉地区（白石市）	<ul style="list-style-type: none"> 湯治場由来の温泉地とそれを取り巻く木々からなる区域。（特性2-④） 	<ul style="list-style-type: none"> 県立自然公園が指定されていることをふまえ，自然公園と連携した，自然環境の保全と湯治場由来の営みを活かした景観まちづくりのきっかけとして，景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。
 <p>★写真位置</p>		 <p>▲小原温泉（白石市）</p>

	区域名	区域の考え方	景観形成の考え方
13	鎌先温泉地区 (白石市)	<ul style="list-style-type: none"> 湯治場由来の旅館が立ち並ぶ温泉地とそれを取り巻く木々からなる区域。(特性2-⑤) 	<ul style="list-style-type: none"> 県立自然公園が指定されていることをふまえ、自然公園と連携した、自然環境の保全と湯治場由来の営みを活かした景観まちづくりのきっかけとして、景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。  <p>▲鎌先温泉 (白石市)</p>
14	青根温泉地区 (川崎町)	<ul style="list-style-type: none"> 川崎町の南側、蔵王山麓の丘陵地と一体となった温泉地の区域。(特性2-⑥) 	<ul style="list-style-type: none"> 国定公園が指定され、貴重な自然環境の保全と湯治場に由来する温泉地の営みの両立が図られており、引き続き、自然公園としての保全・活用を図りつつ、今後、必要に応じて、関係機関と連携・協力しつつ、自然公園法の許可基準を踏まえ検討を行う。  <p>▲青根温泉 (川崎町)</p>



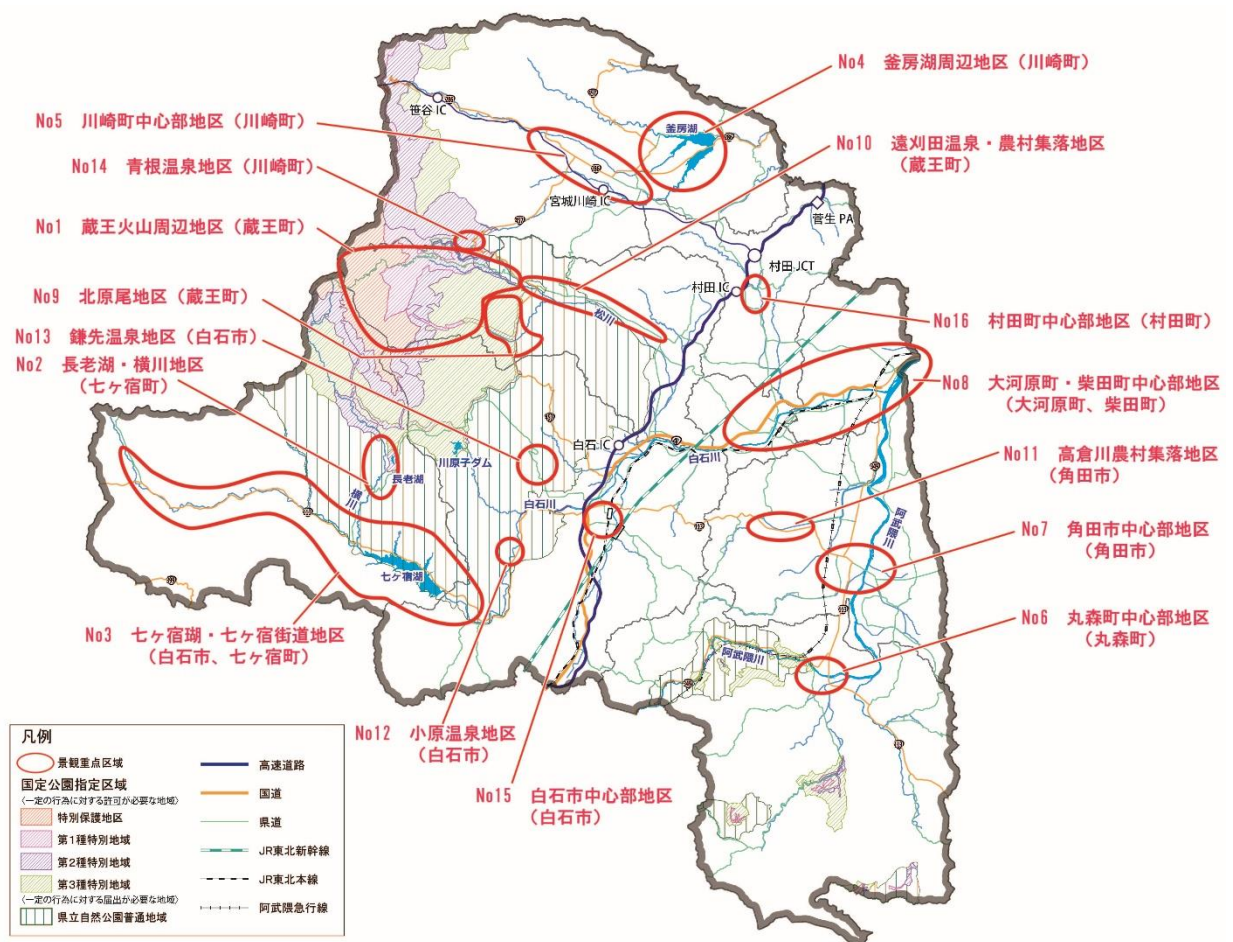
区域名	区域の考え方	景観形成の考え方
15 白石市中心部地区 (白石市)	<ul style="list-style-type: none"> 中世からの要衝であった白石城下町を中心に、仙南地域の大動脈である奥州街道の白石宿、また近代に入り鉄道網の整備に合わせ新たな玄関口を担う白石駅周辺にかけた、白石市の中心を担う市街地の区域。 (特性3-①, 3-⑧) 	<ul style="list-style-type: none"> 仙南地域を代表する城下町としての歴史性や、かつての奥州街道の白石宿の名残を継承する、白石市の中心を担う市街地における景観まちづくりのきっかけづくりとして、景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。 <div data-bbox="847 701 1337 943" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="970 947 1198 976" data-label="Caption"> <p>▲白石城 (白石市)</p> </div>
16 村田町中心部地区 (村田町)	<ul style="list-style-type: none"> 重要伝統的建造物群保存地区と、その周囲に広がる現在の中心を担う市街地にかけた区域。 (特性3-⑥) 	<ul style="list-style-type: none"> 商家町の歴史を伝える中心部では、重要伝統的建造物群保存地区の選定により、建造物を中心に景観の保全・形成が行われており、その町の歴史性を象徴する中心部とともに、一体的に形成されている村田町の市街地において、村田町らしさを活かした景観まちづくりのきっかけとして、景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。 <div data-bbox="836 1570 1321 1933" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="804 1955 1353 1984" data-label="Caption"> <p>▲村田町村田重要伝統的建造物群保存地区 (村田町)</p> </div>



★写真位置



★写真位置



▲景観重点区域位置図

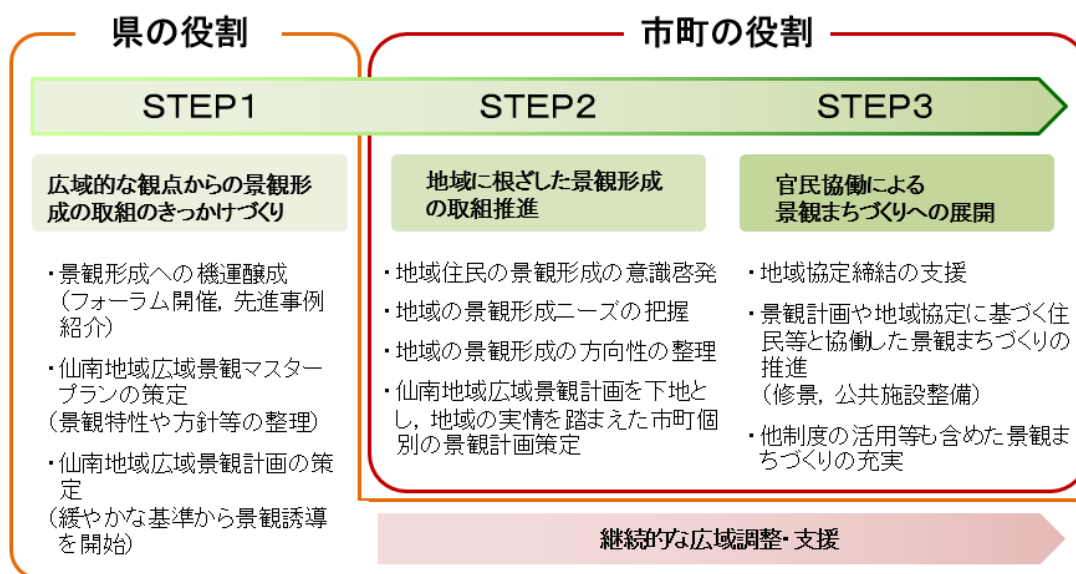
第4章 今後の進め方について

1. 県と市町の役割分担の考え方

景観法では、景観行政の主体として、「良好な景観の形成は、居住環境の向上等住民の生活に密接に関係する課題であること、地域の特色に応じたきめ細かな規制誘導方策が有効であることから、基礎的自治体である市町村が中心的な役割を担うことが望ましい」とされ、本来は市町村が景観行政団体となり、官民が協力・連携した景観形成に取り組むことが望ましいとされています。

一方で、仙南地域のような広域で一体的な景観を有している場合には、広域行政の主体である都道府県が市町村間を調整しつつ、景観形成に連携して取り組むことが求められています。

このため、仙南地域では、県と市町の役割分担の下、県が策定する広域景観計画を広域的な景観形成の取組をきっかけにし、その後、県が継続的に広域調整・支援を図りながら、市町がより充実した魅力ある地域の景観づくりに取り組んでいくといった段階的な景観形成により、良好な景観の形成を図るものとします。



▲段階的な景観形成のイメージ

県の役割（広域景観計画）

●広域的な観点からの景観形成の取組のきっかけづくり

“仙南地域らしさ”を象徴する景観重点区域のうち、他法令による有効な取組を行っていない区域を対象に、景観法に基づく「広域景観計画」を策定し、各区域の景観特性を活かした景観まちづくりの下地づくりを行う（取組の機会創出）。

●緩やかな基準から景観誘導を開始

取組の第一歩として、現在の景観に影響を及ぼす一定規模以上の行為に対し、景観形成への配慮・協力を求めることから始め、緩やかに景観形成への意識づくりへつなげる。

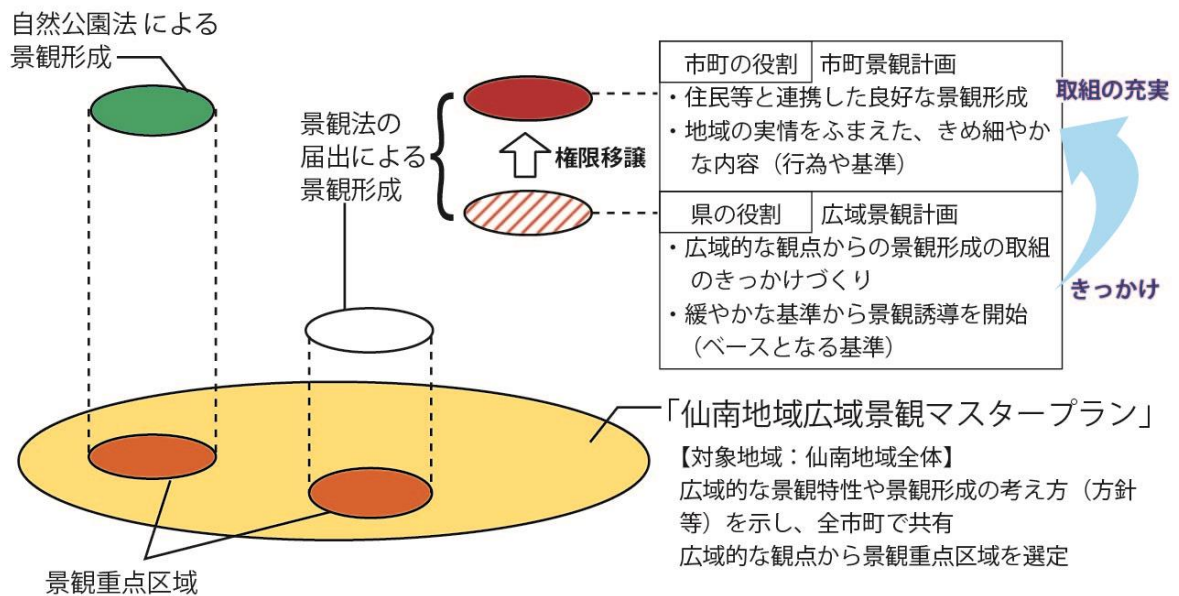
市町の役割（市町景観計画）

●住民等と連携した良好な景観形成

景観行政の主体として景観行政団体となり、地域住民・事業者とともに議論を重ねる。

●地域の実情をふまえた、きめ細やかな行為や基準

「広域景観計画」を下地に、各地区の実情に応じた届出対象規模やきめ細やかな景観形成基準を検討し、景観を通した魅力ある地域のまちづくりへとつなげる。



▲景観計画区域のイメージ及び県と市町の役割分担